

令和7年度
三鷹市立小・中一貫校

全7学園の評価・検証



令和8年6月
三鷹市教育委員会

令和7年度 三鷹市立小・中一貫教育校各学園の評価・検証について

平成21年度に、三鷹市内のすべての公立学校が小・中一貫教育校となり、各学園に設置されているコミュニティ・スクール委員会が、それぞれ、学園運営、教育活動等の成果や、課題と改善策、各課題解決のための創意工夫、改善策の有効性等について評価・検証を行い、結果を教育委員会に報告しています。

各学園は、それぞれの評価・検証を基に、市教育委員会は、各学園からの評価・検証を基にそれぞれの立場で、三鷹市の推進するコミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の一層の充実・発展に努めてまいります。

各学園の評価・検証の項目、取組例は以下のとおりです。

人間力・社会力の育成

(1) コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進

○ コミュニティ・スクールの運営について

【例】・ コミュニティ・スクールの運営に係る内容

- ・ 地域との効果的な連携に係る内容（関係機関との連携、教育ボランティア等）

○ 小・中一貫教育校としての教育活動について

【例】・ 三鷹市小・中一貫カリキュラムの実施・検証に係る内容（学園研究等）

- ・ 小学校間での授業交流
- ・ 相互乗り入れ授業
- ・ 児童・生徒の交流活動

(2) 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育内容の充実

○ (知) 確かな学力について

【例】・ 三鷹市小・中一貫カリキュラム等の活用による授業力向上

- ・ 授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進
- ・ 主体的・対話的で深い学びの推進
- ・ ICT活用
- ・ みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等

○ (徳) 豊かな人間性について

【例】・ 考え議論する道徳

- ・ いじめの早期発見・早期解決
- ・ 情報モラル教育
- ・ 生活指導等

○ (体) 健康・体力について

【例】・ 基本的生活習慣の確立

- ・ 体力向上、健康にかかわる内容（食育）等

(3) 特色ある教育活動について

【例】・ 特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育

- ・ オリンピック・パラリンピックレガシー教育等

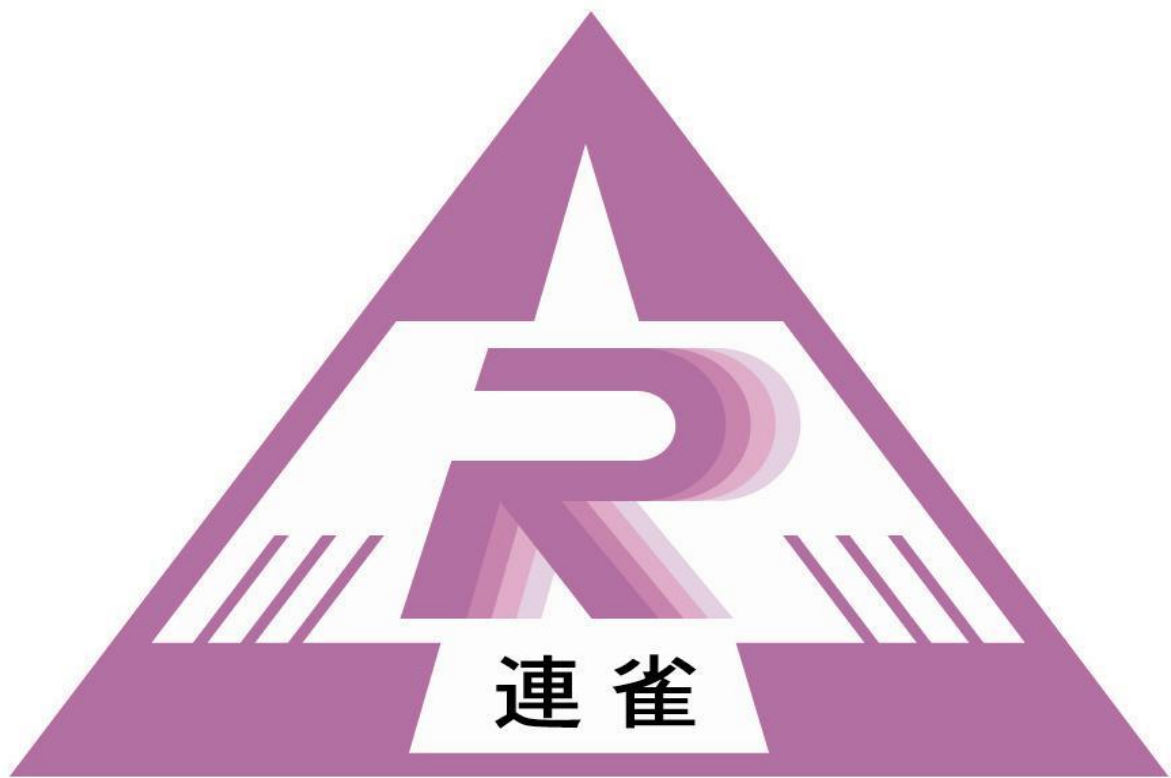
喫緊の課題

○ 学校教育の質の維持向上を目指した教員の働き方改革について

【例】・ 退校目標時間、ノー残業デー等の設定

- ・ 教員のタイムマネジメント力の向上
- ・ 人財の効果的活用
- ・ 地域行事等への参加の工夫等
- ・ 部活動の適正化

連雀学園



令和7年度 連雀学園の評価・検証報告

大項目	Ⅰ コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営		
重点目標	① 学園アクションプランの完成 ② 笑顔満祭などの自主事業の実施		
取組	① 年度当初に予定を立て、9月には公表し次年度の教育方針等の作成に活かせるようにする。 ② 12月2週目の土曜日に開催日を決め、年度当初から準備を進める。		
成果	課題	改善策	
① 年度当初に予定を立て、9月には公表し次年度の教育方針等の作成に活かすことができた。 ② 12月2週目の土曜日に開催日を決め、年度当初から計画的に準備を進めることができた。	① 来年度、実際に「連雀アクションプラン」を活用し、さらにブラッシュアップしていく必要がある。 ② 笑顔満祭の内容を継続していくか、違う内容で進めていくか、検討が必要である。	① 「連雀アクションプラン」の活用状況に応じて必要であれば、改善案を出していく。 ② 今年度のアンケート結果や地域協働本部の反省を生かし、内容を検討していく。	

大項目	Ⅰ コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動		
重点目標	・ 「三鷹市立学校 小・中一貫教育の推進に係る実施方策」を共通理解し実践する。		
取組	・ 令和6年度に整理した学園内の交流活動や相互乗り入れ授業など計画的に実践する。		
成果	課題	改善策	
・ 選択交流や一中体験等の交流が計画通りに進み、児童生徒のアンケートでも肯定的な声が多くあがった。	・ 乗り入れ授業に関しては、後補充教員が見付からず、計画通りに実施できなかった。	・ 児童・生徒の交流を継続・充実するために、活動の適正化を図る。また乗り入れに関しては、学校の実態に合わせて、来年度も実施できるように人財を確保し、計画を立てていく。	

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	1 (知) 確かな学力		
重点目標	・ 研究主題を「自ら学び続ける子どもの育成」と設定し、改訂した三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用して、個別最適な学びと協働的な学びとの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現し、子どもの資質・能力を育成する。		
取組	① 学園研究 ② 地域未来塾などの補習教室の実施		
成果	課題	改善策	
① 学園の研究主題をもとに、授業改善について各校取り組むことができた。 ② 地域未来塾等の補習学習やタブレット端末等の活用により、個々の学びに対応することができた。	①② 学力の定着が十分とはいえない。自らの学びに主体的に取り組む力、学びに向かう力をバランスよく育てていくことが必要である。	①② 自分のペースで学習活動に取り組む、自己調整しながら学習を進めていき、仲間と協働することで、自分の考えを深めていくための手だてを明らかにしていく。	

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	2 (徳) 豊かな人間性		
重点目標	・ 多様な立場や考えを想像したり、理解しようとしたりする態度 や他者とコミュニケーションを図りながら協働する力を育てる。		
取組	① 学園生活指導部や研究全体会での研修、学園研究での実践の共有。 ② 学園全体でのデジタル・シティズンシップ宣言の設定		
成果		課題	改善策
①② 学園内での小中間、小小間での活動を通して心の醸成ができた。学園全体でデジタル・シティズンシップ宣言については熟議を重ね、中学の生徒会で整理したものを、各校で活用することができた。		①② 魅力のある学園の風土を継続し、醸成していくことや、デジタル・シティズンシップ宣言を意識し、実際の行動と結び付けられているか確認していくことが必要である。	①② 年度ごとに、生徒児童の実態に合っているか見直し、内容をブラッシュアップしていくことで、自分事として子どもたちが考えられるようにしていく。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	3 (体) 体力・健康		
重点目標	・ 基本的生活習慣を確立するとともに、体力や健康づくりに自ら取り組む。		
取組	・ 体力調査の結果や全国学力学習状況調査の結果をもとに、授業改善を進めるとともに、よりよい生活習慣の定着に向けて、家庭や地域と協力して取り組む。		
成果		課題	改善策
・ 体力向上の取り組みは、各校計画的に進めることができ、個々の体力の向上が図れた。		・ 健康・運動・食育について、より効果的な研究を推進していき、学園としての取り組みを考えて実行していく。	・ 各校の取り組みで効果的な活動について共有し、分析・考察しながら、授業で実践できるようにしていく。

大項目	Ⅲ 特色ある教育活動（その他）		
検証項目	1 特色ある教育活動		
重点目標	・ 地域と協働した教育活動をより一層進める。		
取組	① 各校の特色を生かしたキャリア・アントレプレナーシップ教育の実践 ② 放課後教室開放等や地域人財を活用した部活動などの実施		
成果		課題	改善策
①② 地域や保護者に協力していただきながら活動することで、子どもたちの主体的な学びを支えることができた。		①② 活動の体験に終わらず、児童・生徒の実態に基づいた活動にすることで、より効果的な活動にしていく必要がある。	①② 子どもたちの声を聞き、学習の目的を明確にもった内容にすることで、より効果的な活動にしていく。

大項目	Ⅳ 学校教育の維持向上を目指した教員の働き方改革		
検証項目	1 働き方改革		
重点目標	・ 教員の働き方を見直し、教員が健康で充実して働き続けることができるようにする。		
取組	① SC推進員、校内の専門スタッフや校務支援システムの活用、効率的な会議運営 ② 部活動指導員や地域人財を活用した部活動の実施		
成果		課題	改善策
①② 業務の改善や効率化に対して、個々に意識しながら進めたり、心身の状況の把握について、教員間で声を掛け合ったりすることができていた。		①② 時間外勤務している教員が一定数おり、働きがいや意欲を損なわないように、ライフ・ワーク・バランスについて意識を促していく。	①② 働き方改革に向けた業務の見直しや、地域人財と協働しながら、さらに業務改善について進めていく。

にしみたか学園



にしみたか学園

令和7年度 にしみたか学園の評価・検証報告

大項目	Ⅰ コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進	
検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
重点目標	・ 小・中一貫コミュニティ・スクールの取組の意図や目的の共通理解の促進。地域、保護者へのアピール。 ・ 地域との交流の活性化。	
取組	・ 学園職員会議、学園研究などで、小・中一貫コミュニティ・スクールの取組について共通理解を図る。また、CSガイド等を活用し、取組のアピールを行う。 ・ あささんネット主催の地域交流、地域人財活用をスクール・コミュニティの活性化につなげる。	
成果		課題
・ 年度当初に全教職員に小・中一貫コミュニティ・スクールの説明をすることができた。 ・ 焚火やあささんカフェ、熟議の取組や授業サポートで、教職員にとって地域がより身近に感じられるようになった。 ・ 「三鷹の教育」で、コミュニティ・スクールの良さを発信することができた。		・ 小・中一貫コミュニティ・スクール実施方策の改定に伴い、にしみたか学園でも改めて小・中一貫の取組の再評価、再確認が必要である。 ・ 地域からのたくさんのサポートに対して、折に触れ感謝の気持ちを伝えていくことが必要である。
		改善策
		・ 来年度、学園研究を中心に小・中一貫についての再評価、再確認を行う。 ・ 教職員自身が地域とのふれあいを楽しみ、感謝の気持ちを素直に伝えていけるようにする。

大項目	Ⅰ コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進	
検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
重点目標	・ 小・中一貫カリキュラムの改善。 ・ 学園研究で主に特別活動を中心とした話し合い活動の9年間の系統性を構築する。 ・ 三校交流、乗り入れ授業の活性化。	
取組	・ 年間の教育活動を基盤とし、小・中一貫カリキュラムの改善を図る。 ・ 学園研究で話し合い活動の9年間の系統性を構築する。 ・ 交流や乗り入れ授業の意義、目的を改めて共有していく。	
成果		課題
・ 小・中一貫カリキュラムについては今年度の修正はほぼ終了している。 ・ 学習指導要領の特別活動における(2)、(3)について学園で理解を深め、実践することができた。 ・ 小・小、小・小・中の交流が活発に行われた。		・ 一貫カリキュラムの活用をより促進したい。 ・ 築き上げた特別活動の取組を、今後も続けていきたい。 ・ 乗り入れ授業の英語講師の確保が課題である。
		改善策
		・ 研究推進委員を中心に、教員から活用に向けてのアイデアを集める。 ・ 特別活動の取組を来年度以降も続けていく。 ・ 講師を確保し、乗り入れ授業を充実させていく。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実	
検証項目	1 (知) 確かな学力	
重点目標	・ 主体的・対話的で深い学びの推進。 ・ 個別最適な学び、協働的な学びの推進。(ICTの活用、授業のUD化等) ・ 三鷹市小・中一貫カリキュラム、教員同士の学び合い、学園研究の取組による授業力の向上。	
取組	・ 学園研究での話し合い活動を基盤とし、主体的・対話的で深い学びを推進していく。 ・ 授業評価を授業改善に活用していく。 ・ 三鷹市小・中一貫カリキュラム、教員同士の学び合い、学園研究の取組を活用し、教員の授業力を向上していく。	
成果		課題
・ 学園研究の特別活動を中心とした話し合い活動の取組は、他教科の話し合い活動にも良い効果をもたらした。特に中学校の研究授業では、いくつかの教科の話し合い活動を特別活動の視点で追究することで、教科を横断して特別活動的な視点をもつ大切さを学園内で共有できた。		・ 学園内で授業を見合う風土づくりに着手した。少しずつ学校の枠を超えて日常的に学び合う姿が見られるようになったが、まだ十分とは言えない。 ・ UDについて学園内で工夫を共有する機会が少なかった。
		改善策
		・ 1学期から積極的に各校で行われる授業の紹介をし、学び合いの機会を増やしていく。 ・ 自校以外の学校に行った際には、各校のUDの工夫などを確認するようにする。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	2 (徳) 豊かな人間性		
重点目標	・ 話し合い活動の推進。 ・ いじめの早期発見、早期解決。 ・ デジタル・シティズンシップ教育の推進。 ・ 非認知能力の育成。		
取組	・ 話し合い活動を学級活動だけでなく、各教科の授業にも活用していく。 ・ ふれあい月間、Q U、全員面談等で、子ども間のトラブルを早期発見し、校内委員会で対応を行う。 ・ デジタル・シティズンシップ教育を推進し、子どもたちに「より良い大人」になるための自律心を養っていく。 ・ 学級、委員会、クラブ、部活動、行事等で、非認知能力の育成を意識して行っていく。		
成果		課題	改善策
・ 話し合い活動の研究や、自ら考え行動する機会づくり（委員会、クラブ、部活動など）を深めていくことは、クラスづくり、学年づくり、学校づくりにつながった。 ・ アクションプランの目標設定や振り返りも、子どもの主体性を育むことにつながっている。		・ 学園での特別活動の研究は今年度で終わりになる。培ってきた話し合い活動の力を来年度以降も持続させることが課題。 ・ デジタル・シティズンシップについて、各校ごとの取組は進んだが、学園内で共有する時間が取れなかった。	・ 特別活動の取組を今後も丁寧に続けていく。 ・ デジタル・シティズンシップの取組を学園の児童生徒で話し合う機会を年度当初に計画する。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	3 (体) 体力・健康		
重点目標	・ 体力の向上 ・ 基本的生活習慣の確立 ・ 食育の推進		
取組	・ 体力テスト等の分析により、各校の実態に合わせた取組による体力向上を図る。 ・ 基本的生活習慣の改善にかかわる取組を行う。（各学年の保健指導、薬物乱用防止教室、ネットモラル教室等） ・ 食育担当を中心に、各校で食育を推進する。（自らの食を考える、食に対する知識や選択する判断力の育成）		
成果		課題	改善策
・ 体力向上、基本的生活習慣の確立、食育の推進に向けての取組は、各校それぞれの担当が中心となり進んでおり、児童・生徒の意識は高まっている。		・ 各校の取組はそれぞれで進んでいるが、学園内での情報交換やノウハウの共有が少ない。	・ 各校の担当で、それぞれの取組やノウハウの共有を行う工夫をしていく。特に地域と連携した取組については積極的に情報交換を行う。

大項目	Ⅲ 特色ある教育活動（その他）		
検証項目	1 特色ある教育活動		
重点目標	・ キャリア・アントレプレナーシップ教育の推進 ・ 自ら考え行動し、未来を切り開いていける子どもの育成 ・ 子どもの居場所づくりの推進		
取組	・ まちづくりプランナー、職業人の話を聞く、職場体験等を地域の力を借り、推進していく。 ・ 児童・生徒代表者会議を中心に、子どもの話し合いを行い、その意見を学校、地域に生かしていく。 ・ 地域団体、地域部活動、PTAによる子どもの居場所づくりを充実させる。（地域部活動の充実、放課後子ども教室の推進）		
成果		課題	改善策
・ キャリア・アントレプレナーシップ教育については、地域のアイデアも参考にし、子どもたちに職業だけでなく、大人になってからの生き方全般について考えさせる良い機会となった。 ・ 子どもの居場所づくりについては、小学校2校の放課後開放が週5回となり、順調に利用が伸びている。		・ 児童・生徒代表者会議について、十分な時間が取れておらず、意見を生かす機会が少ない。 ・ キャリア・アントレプレナーシップ教育については、9年間を見通した内容のブラッシュアップ、取組の意義についての教員間の共通理解が必要になる。	・ 児童・生徒代表者会議については、オンライン開催も含め、年度当初に年間予定を作成する。 ・ カリキュラムの改善を行う中で、キャリア・アントレプレナーシップ教育を再構築していく。

大項目	Ⅳ 学校教育の維持向上を目指した教員の働き方改革		
検証項目	1 働き方改革		
重点目標	・ 退勤目標時間の設定、ノー残業デー等の設定 ・ タイムマネジメント能力の育成 ・ 働きがい、働きやすさを念頭に置いた改革		
取組	・ 各校の実態に合わせ、退勤目標時間、定時退勤日、部活動の活動日数の制限継続、男性の育業取得促進等の取り組みを行う。 ・ メリハリのある働き方を推進する。 ・ 単に時短だけを求めるのではなく、成果を可視化する、チーム力強化、職員の意見を取り入れる等の働きがい、働きやすさを念頭に改革を行う。		
成果		課題	改善策
・ 学園の関わる会議にオンラインを取り入れたり、チャットを活用して情報交換をしたりする中で、会議の負担感を軽減することができた。 ・ 助け合い、支え合う職場づくり、地域・保護者のご協力もあり、働きやすい環境づくりは各校で進んでいる。		・ 人財不足の傾向は続いており、各校に影響が出ている。 ・ 教員の取組成果を十分に可視化できていない。	・ 人財については、早めの把握、対応を心掛け、他校とも情報共有を行う。 ・ 教員の取組について、成果のわかるものは提示、紹介を積極的に行う。

三鷹の森学園



令和7年度 三鷹の森学園の評価・検証報告

大項目	Ⅰ コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進	
検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
重点目標	・ スクール・コミュニティの創造に向けて、地域・学校協働活動の充実を図る。	
取組	・ 地域学校協働活動を推進する団体を立ち上げ、学校を核とした地域づくりを推進するために、コミュニティ・スクール委員の学校参観月間を年2回実施し、実際の学校教育を参観していただく中で、地域学校協働活動の取組を積極的に進め、地域ぐるみで「人間力」「社会力」を育成する。	
成果	課題	改善策
・ 小・中ともに学校公開や行事を計画通り実施でき、教員の78%が地域連携を肯定的に捉え、CS委員の参観が相互理解に有効だと実感している。	・ 多くの地域住民や保護者の参観を得られた一方で、より幅広い層が「参加しやすい・参加したい」と思えるような公開方法や内容の精査が求められている。また、参観者から得られた多様な意見を具体化し、次年度の計画へ反映させたい。	・ CS委員との協議を重ね、参観時間や形態を工夫し、魅力ある学校公開の実施を図る。参観後のフィードバックを生かし、授業改善や行事運営に反映させることで、双方向の「地域と共にある学校づくり」を一層推進していく。

大項目	Ⅰ コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進	
検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
重点目標	・ 地域の教育資源を活用したカリキュラム・マネジメントを推進する。	
取組	・ 9年間を通じて育成を目指す「資質・能力」を位置付けた「学園版カリキュラム」に基づいて、小中学校や教科・領域間等のつながりを生かし、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を目指す実践研究に取り組む。	
成果	課題	改善策
・ 全ての学校で計画通りに研究授業や交流会が実施され、教員の肯定的な評価も80%を超えた。学園研究会では「つながり」を意識した協議や、児童会・生徒会の交流も効果的に行われた。	・ 授業参観から十分な学びを得られなかった教員が一部存在し、研修の成果の実感に差がみられた。また、地域住民が協議に参加しにくい点や、地域の教育資源の活用が進まない点もみられた。	・ 教員が学ぶ価値を実感できる研究内容への工夫と、地域資源の可視化を進める。また、地域の方も参加しやすく分かりやすい協議運営を検討し、学校と地域の連携をさらに深める。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実	
検証項目	1 (知) 確かな学力	
重点目標	・ 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取り組みを推進する。	
取組	・ 各種学力調査のデータ等から個々の児童・生徒の課題を明らかにするとともに、一人一台タブレットPCや学習支援ツール等の活用により、児童・生徒が自らの学習を計画的に進められるようにする。	
成果	課題	改善策
・ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するための重要なツールとして、学習用タブレット端末を積極的に活用する授業の研究を進めてきた。取組に対する評価は、教職員・児童・生徒ともに肯定的回答が多く、授業が分かった上で自分の考えを伝えることに自信をもつ児童・生徒が増えてきたことがうかがえる。	・ 様々な授業改善を行っても、自信がもてなかったり授業の理解が不十分だったりする児童・生徒は存在する。個別最適な学びのための手だてや配慮について、まだ研究途上といえる。また、授業研究を計画するときに、関係者評価の項目が立てやすくなるような配慮も必要となる。	・ どの学力層にとっても学びが深まる指導と、それぞれの学力層に応じた指導の両方を充実させるような研究の方向性を模索していく。新しい学習用タブレット端末の活用が個別最適な学びや協働的な学びにつながっていく過程が、関係者にも理解していただけるような授業研究を進めていく。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	2 (徳) 豊かな人間性		
重点目標	あらゆる教育活動を通して、他者との関わりを大切にし、協働して課題解決に取り組もうとする意欲を育む。		
取組	「多様な人々との対話や協働を通じて、新たな価値やよりよい社会を創造していく力」を育成するために、地域の教育資源の活用を図る。		
成果		課題	改善策
地域人財による学習を進め、多様な人々との対話や協働の機会を充実させてきた。その結果、子どもたちは他者の考えを尊重しながら自分の意見を表現し、地域の大人と協力して課題に取り組む姿が多く見られた。また、社会の一員として地域に関わろうとする意欲が高まり、学びが社会とつながる実感をもつようになった。		活動に関わる地域人財の確保や連携体制の継続的な維持が課題として挙げられる。また、学習活動が単発的になりやすく、年間を通した体系的な学びにつなげるためのカリキュラム設計が十分とはいえない点も課題である。	地域人財の確保と連携体制の強化に向けて、学校と地域団体・自治体との協力関係を継続的に構築し、活動内容を共有する機会を増やす。また、学習が単発で終わらないよう、年間指導計画の中に地域資源を活用した学びを体系的に位置付け、継続性のあるカリキュラムを整える。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	3 (体) 体力・健康		
重点目標	自らの健康・体力の保持・増進に努め、望ましい生活習慣を身に付けた児童・生徒を育成する。		
取組	学園の共通課題である「体力・運動能力の向上」の実現に向けて中学校保健体育科教員の小学校への乗り入れ授業を活用するとともに、児童・生徒の課題に応じた「一校一取組」「一学級一実践」を進める。		
成果		課題	改善策
小・中連携の乗り入れ授業や外部講師による健康教育を計画通り実施した。その結果、運動への肯定的回答は90%と高かった。		高学年になるにつれ運動を「楽しい」と感じる割合が低下する傾向にある。楽しいと感じられる活動の工夫が必要である。	発達段階に応じた活動を工夫し、運動の日常化と家庭と連携を図り、健康・安全意識を高めて改善を図る。

大項目	Ⅲ 特色ある教育活動（その他）		
検証項目	1 特色ある教育活動		
重点目標	地域人財の活躍、学校周辺環境を活用した人間力・社会力の育成		
取組	学校ホームページや学校だより等を活用し適切に教育情報の発信に努める。また、開かれた教育課程に基づき、SC推進員を活用するなど、地域人財や学校周辺の教育資源を活用した教育活動を行う。		
成果		課題	改善策
SC推進員の尽力により、地域人財の活躍や周辺環境を活かして、教育活動の充実を図ることができた。		- 新規の取組によっては、事前の準備や協力団体の新規開拓、関係各所への交渉等のため教員負担が増加してしまい、改善が必要。 - 本項目の目標や評価指標内容等の改善が必要。	- 当日のサポートだけではなく、可能な限り準備段階から地域と協働して取り組む。 - 大項目ごとの目標や評価指標内容等を見直し、改善を図る。

大項目	Ⅳ 学校教育の維持向上を目指した教員の働き方改革	
検証項目	1 働き方改革	
重点目標	・ 教職員の働き方改革と学園の教育活動の充実・向上の両立を図る。	
取組	・ オンラインと対面それぞれの利点を生かしたメリハリのある学園会議・研究会の運営や、ＳＣ推進員・ＳＳＳなどのスタッフの活躍による業務の改善に取り組むとともに、学園の諸事業についても学園目標に照らして重点化を図ることにより充実と合理化・スリム化を両立する。	
成果	課題	改善策
・ 業務改善面接の定例化により、管理職が教員の状況を把握する体制が整った。ＩＣＴ活用や留守番電話の導入、下校時刻の見直しを行った学校では、月平均約７時間の削減を実現。一部で意識改革が見られた。	・ 依然として単月での前年度比減が困難な月が多く、成果評価が低迷している。特定の教員に業務が集中し、長時間勤務者が固定化する傾向が強い。組織全体での業務削減が、年間を通じた縮減にまで結びついていない。	・ 面接での個別の相談を、具体的な業務配分の見直しへ繋げる。先行して成果を上げたＩＣＴ活用や校務のデジタル化、行事精選の事例を横展開し、組織的な効率化を加速させる。若手へのＯＪＴを通じた底上げも重要である。

三鷹中央学園



令和7年度 三鷹中央学園の評価・検証報告

大項目	Ⅰ コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進	
検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
重点目標	・ スクール・コミュニティを目指した更なる協議と支援の充実	
取組	・ 「中央学園スマイルアクション！」の更なる周知、家庭との連携、学園生一人ひとりに対する効果的な活用	
成果	課題	改善策
・ 「中央学園スマイルアクション！」の保護者への周知度が高まった。また、めざす学園生像の実現に向けて「中央学園スマイルアクション！」の効果的な活用について学園で検討することができた。	・ 学園生、教職員の「中央学園スマイルアクション！」の効果的な活用に対する意識の向上と実践 ・ 学園の取組に関する効果的な広報	・ 9年間のつながりを意識した「中央学園スマイルアクション！」とキャリアパスポートとの連携 ・ CS委員会や地域学校協働本部と連携した広報活動の充実

大項目	Ⅰ コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進	
検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
重点目標	・ 学園防災フェスティバルを核とした9年間の防災教育の充実	
取組	・ 3/14(土)の学園防災フェスティバルに向けた地域と学園が連携した防災教育の充実	
成果	課題	改善策
・ 学園防災フェスティバルの開催が学園の9年間の防災教育を振り返る機会となり、地域協力団体との連携による防災の授業づくりが防災教育の充実につながった。	・ 9年間の防災教育の系統化、共通理解 ・ 地域防災力のさらなる強化 ・ 学校を核とした地域防災の広がり	・ 学園委員会等による9年間の防災教育の系統化 ・ 学園生が身に付けた防災に関する知識や技能を披露する場の継続的な設定 ・ 地域協力団体等との連携による防災の授業づくりのさらなる充実

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実	
検証項目	1 (知) 確かな学力	
重点目標	・ 相手の考えを生かし自分の考えを広げ深める力の育成	
取組	・ 学園生の自立した学びの実現に向けた学園研における研究の充実	
成果	課題	改善策
・ 昨年度までの学園研究「自立した学びの実現」の成果を各校での校内研究の活性化につなげることができた。自らすすんで学習に取り組んでいる学園生の割合が高かった。	・ うまくいかないことや苦手な学びへの手だての充実 ・ 学習意欲の向上につながる授業改善	・ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に推進する学園研究の継続的な取組 ・ 9年間の学びの連続性、系統性の再確認

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実	
検証項目	2 (徳) 豊かな人間性	
重点目標	・ 自分も相手も大切に作る心、他者のやさしさを理解する心の育成	
取組	・ 自己肯定感や自己有用感を高める指導の充実、長期欠席や配慮を要する学園生への対応の強化	
成果		課題
学園内の直接的な交流や行事等を通じて、仲間を認め、良いところに目を向ける指導ができた。仲間との交流を楽しみ、あいさつや応援を大切に、安心して過ごすことができた学園生の割合が高かった。		- 学年や学校を越えた交流活動の充実 - 長期欠席や配慮を要する学園生、相談できる大人がいない学園生に寄り添った支援
		改善策
		- 豊かな心を醸成する異学年や学園内の交流活動の活性化 - 学園内の組織的な対応の強化（学園生の情報共有・引継ぎの改善、取組や対応の共通理解）

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実	
検証項目	3 (体) 体力・健康	
重点目標	・ 自らすすんで心と体の健康を大切にする態度の育成	
取組	・ 生涯を通じて運動に親しむ態度を育成するための具体的な取組の実践	
成果		課題
体育の授業や外遊び等を通じて、運動に親しみ、楽しく体を動かすことができた学園生が多かった。		- 運動に親しみ、運動への意欲を高める取組 - 運動、栄養、休養、時間の使い方意識した力が付く生活習慣の実践
		改善策
		- 学園生の声を取り入れた運動に親しむ取組の実践 - 調査結果を踏まえた基本的な生活習慣を身に付けさせるための継続的な指導、家庭との連携

大項目	Ⅲ 特色ある教育活動（その他）	
検証項目	1 特色ある教育活動	
重点目標	・ 地域の人財と連携した各校の特色ある教育活動の充実	
取組	・ 学習ボランティア等との連携を深めた授業づくり、地域団体と連携した防災教育やボランティア活動等の実践	
成果		課題
地域人財と連携した取組により、地域の方のおかげで授業や学校行事、放課後活動等が充実していると感じている学園生が増えた。		- 地域人財と連携した取組に関する家庭や地域への周知 - 地域と教職員とのコミュニケーションの活性化
		改善策
		- 学園だよりや学校だより、HP 等での積極的な広報 - 地域と学園生、地域と教職員とのコミュニケーションの場の意図的な設定

大項目	Ⅳ 学校教育の維持向上を目指した教員の働き方改革	
検証項目	1 働き方改革	
重点目標	・ 働きがいを見いだす本質的な業務の遂行	
取組	・ 教職員の心身の健康を優先した組織的な改善策の推進	
成果		課題
教職員一人ひとりを大切に、組織的な運営や業務のスリム化を通じて、「働きやすさ」や「働きがい」を感じている教職員は80%を超えた。		- 安心して働ける職場づくり - 否定的な回答への寄り添い、対応策 - 地域人財との連携
		改善策
		- 学園や学校内の組織的な連携を深める工夫 - 業務内容や分担の再確認、分掌や学年等での相談体制の強化 - C S委員会と協働した働き方改革に対する検討

鷹南学園



令和7年度 鷹南学園の評価・検証報告

大項目	I コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営		
重点目標	・ 学園の教育活動をより充実させるため、学園の教員同士、教員とCS委員・地域が協働を図る。 ・ 学園の児童・生徒に多様な学びや経験の場をつくる。 ・ 児童・生徒の主体的な地域行事等への関わりを促し、地域を大切に思う気持ちとボランティアマインドの醸成を図る。		
取組	・ 年度当初の学園研修、小・小の学年別会議、教員とCS委員の熟議、より多くの関係者が参加し親睦を深められる鷹南会を実施する。 ・ 第2部・3部及び地域の関連団体と連携し、児童・生徒が学びを充実させるとともに豊かな経験をすることができるようにする。 ・ CS委員会主催の地域行事、住民協議会等地域団体主催の各種行事等に参加する児童・生徒を支援し、その活動・活躍を広報する。		
成果	課題	改善策	
・ CSについて教職員の理解が概ね進展しており、自分たちと関わりのある取組みに関しては理解度が高く、学校と地域が協働する基盤が着実に形成されつつある。特に、地域に支えられた教育活動の価値を教職員が実感している。	・ 児童・生徒の多様な学びや経験の場となっているCS委員会主催行事や地域行事の多くが休日に実施されているため、教職員が児童・生徒の様子を実感できる機会が少ない。 ・ 学校行事等へのCS委員の参加率を高めたい。	・ 地域行事への参加体験を初任者研修の単位として扱うなど、可能なものは教員にとって意義ある研修と結びつけ、地域との関わりのかきかけとする。 ・ 行事等の予定を早期に広報するとともに参加依頼し、CS委員・地域住民が参加しやすい環境を整える。	

大項目	I コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動		
重点目標	・ 児童・生徒双方の学びになるよう内容や質を重視した学園行事や学園交流を実施する。 ・ 学園として一体感をもって児童・生徒が交流を深められるようにする。		
取組	・ 鷹南学園合同行事（学園引き渡し訓練、学園あいさつ運動、児童・生徒会交流、小中合唱交流【仮称】、小6中学校・部活動体験）の実施および地域行事（総合防災訓練、鷹南コンサート、丸池まつり）への参加。小学校6年生における学園合同自然教室の実施に向け、1年生から段階的な小・小交流を教科横断的な視点と柔軟な発想で計画・実施する。 ・ 児童・生徒それぞれが成長する機会となるよう、学園行事・交流の年間計画の評価・改善を行う。		
成果	課題	改善策	
・ 小学校から中学校への円滑な接続につながる交流行事を効果的に実施することができ、中学教員の90%、児童の90%、生徒の85%が交流の意義を肯定的に捉えており、小・中の円滑な接続に一定の成果が見られた。	・ 乗り入れ授業について、中原小⇄五中は、体育を除き相互実施できているが、東台小から五中への乗り入れが実施できていない。（五中から東台小へは国語と特支が乗り入れ実施） ・ 小・小、小・中とも交流が充実してきているが、一部の児童・生徒の交流に留まっている。	・ 市教育委員会と連携して市費講師の確保を行い、2校の小学校との相互乗り入れ授業を確実に実施する。 ・ 全学年・全児童・生徒が継続的に関われる交流の在り方を整理・改善していく。	

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	1 (知) 確かな学力		
重点目標	- 全ての児童・生徒に確かな学力を身に付けさせるため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 - 全教員が当事者意識をもって参加する学園研究を実施する。		
取組	- 各種調査結果から児童・生徒一人ひとりの課題を明らかにし、課題解決に向けた教員の指導の工夫と児童・生徒の資質・能力を高める。(学習用タブレット端末・地域未来塾・学習支援ボランティア・地域人財・地域資源の活用) 3校の教員が積極的に授業を参観し合い授業改善に取り組む意欲を高められるような学園研究を実施する。一人ひとりの教員が自らの課題を明確にし、学んだことを授業改善にどう生かしているかを情報共有する機会を設ける。		
成果		課題	改善策
学園全体として、ICTを活用した学びの推進により、児童・生徒が自ら考え取り組む姿勢が育成されている。特に、自己調整力の育成を意識した授業づくりもすすみ、児童・生徒の肯定的評価や、学力調査における一定の成果が見られる。		ICTや生成AIの活用については、学園としての一貫した方針・ルールの整備と教員が継続的に学ぶ体制づくりが求められる。主体的・対話的な学びを基盤とし、深い学びを一層意識した授業改善と、個々へのきめ細かな支援をさらに充実させていく必要がある。	全国学力調査の平均正答率等を指標とし、学園研究・校内研究において「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る」ことを目標とした取組を推進する。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	2 (徳) 豊かな人間性		
重点目標	- 不登校の未然防止のための効果的対策とともに、不登校児童・生徒の居場所づくりと学校・地域とのつながりづくりを推進する。 - いじめや問題行動が発生しづらい、安全・安心な学校風土の醸成を目指す。 - 自分のことも、他の人のことも大切にできる児童・生徒を育成するために人権教育を充実させる。		
取組	- 小・中教員による情報共有を活かし、不登校経験児童が中学校進学時によりスタートを切れる環境を整える。 「ふれあいアンケート」や面談を活用したいじめの早期発見・対応、不登校対応別室の充実により、学校への安心感を高める。 - 児童・生徒とともに教職員の言語環境や人権意識を高めるとともに、「SOSの出し方教育」「生命の安全教育」等を適切に実施する。		
成果		課題	改善策
丁寧な連絡や連携により、安心・安全な学校生活を実感している児童・生徒、保護者が多数を占めている。不登校対応や人権教育等の取組みにより、他者尊重の意識が育まれ、学校生活の安定につながっている点は、大きな成果である。		不登校や人間関係に困難を感じる少数の児童・生徒への支援は引き続き必要である。校内体制の定期的更新や関係機関との連携による支援の充実が求められる。また、人権教育や道徳教育、家庭と連携した丁寧な対応等を一層深化させることも必要である。	- 教職員が入れ替わっても安心・安全な学校・学園風土は不変であるよう人権教育、道徳教育をさらに充実させるべく組織的に取り組んでいく。 - 複数の相談窓口を用意し、丁寧に広報することで、児童・生徒・保護者が心配事や悩み事を気軽に相談できる環境を整えていく。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	3 (体) 体力・健康		
重点目標	・ 運動会・マラソン期間(小学校)、体育大会・駅伝大会・スポーツ大会(中学校)などの体育的取組みにおいて、児童・生徒の意欲を引き出し、主体的に体力を高めようとする態度を育てるとともに、仲間と協力して目標を達成する喜びを味わわせる。 ・ 応援団(小学校)、体育委員会(中学校)等の主体的な活動により、リーダーシップ・フォローシップの育成を図るとともに、係活動などで集団に貢献することに喜びを感じられる児童・生徒を育てる。		
取組	・ 小・中管理職、教職員が体育的行事を相互に見学・鑑賞し、それぞれの特長を共通理解した上で、小・中一貫教育のカリキュラム・マネジメントに反映させ、学園の子どもたちのよさをさらに伸ばしていく。 ・ 日常的に、早寝・早起き・朝ご飯などの生活習慣指導を大切にするとともに、給食を題材とした食育を推進する。		
成果		課題	改善策
・ 主体的に運動や行事に取り組む場を通して、体力向上や意欲の高まりが見られる。部活動や日常的な運動についても、見通しをもって取り組める環境が整い、家庭と連携した健康づくりを進めることもできている。		・ 体育・健康づくりに関する取組の方針や成果の共有を一層徹底する。猛暑や工事等の影響を踏まえ、安全に配慮しながら体力向上を図る方法や環境設定、時期や内容の工夫を、今後さらに検討・充実させていく。 ・ 部活動ガイドラインを遵守し、安全で適切な部活動を推進しているが、種目の特性や自身の適性について理解が不足した状態で入部し、不適応を起こす生徒がいる。	・ 小学校での体力向上のための週間、中学校での体育大会期間における児童・生徒主体の取組をさらに充実・発展させていく。 ・ 6年生対象の部活動体験が有効な経験となるよう小・中の事前連携を深化させるとともに、中学校の部活動を小学生・保護者に周知する機会を増やす。

大項目	Ⅲ 特色ある教育活動（その他）		
検証項目	1 特色ある教育活動		
重点目標	・ 地域人財・資源を活用した教育活動をさらに充実させる。 ・ 小・小交流、小・中交流の充実によって、学園全体の一体感を高める。 ・ キャリア教育および校外学習などにおいて、キャリア・アントレプレナーシップの視点に基づいた体験活動を計画・実施し、児童・生徒が主体的に社会に貢献していこうとする意欲を高める。		
取組	・ 職業人の話を聞く会、職場体験等において、CS委員会と連携して事業を進めるとともに、児童・生徒が多様な他者から学ぶ機会をさらに充実させる。 ・ 小学校合同自然教室、小学6年生の中学校体験・部活動体験などを通して、児童・生徒がお互いを知り、協働することの楽しさを味わえるようにする。 ・ 職業に関する学習や学校行事等において、探究的課題を自ら設定させたり、新たな価値の創造に取り組ませたりすることによって、アントレプレナーシップの育成を図る。		
成果		課題	改善策
・ 体験的行事を核に、主体的・探究的な学びが定着しつつある。キャリアパスポートの活用や地域との連携した学習、キャリア・アントレ教育などにより、「社会とつながる学び」が系統化されて、表現力や協働力へもつながっている。		・ 発達段階や生活指導上の配慮を踏まえつつも、実態に応じた計画と、その確実な実施を、学園として共有・徹底する。小・中一貫の視点で、児童・生徒の自主性・探究性をさらに伸ばすため、地域との連携や学びの系統性をより明確にする。	・ 小学校での「職業人の話」や中学校での「職場体験」「上級学校調べ・訪問」などを系統的に計画・実施するとともに、キャリアパスポートの活用方法等について学園教職員で共有し、より有効な活用につなげていく。

大項目	Ⅳ 学校教育の維持向上を目指した教員の働き方改革		
検証項目	1 働き方改革		
重点目標	・ 地域人財やサポートスタッフの活用、ＩＣＴ環境の整備による業務の効率化、行事や会議の精選や見直しを実行し、教職員の時間的・事務的負担を軽減し、授業準備や児童・生徒と向き合う時間を十分に確保できるようにする。		
取組	・ 年３回の学園公開を、足並みを揃えて実施するとともに、翌月曜日に振替休業日を設定する。 ・ 長期休業中は、勤務時間終了時刻に全員が退勤する。		
成果		課題	改善策
・ ＩＣＴやＤＸの推進、教科担任制・支援員の活躍等により、校務の効率化と教育活動の質の向上が進んでいる。研修等の機会確保は、やりがいの醸成にもつながっている。数値面でも一定の改善が見られ、保護者からも取組が評価されている。		・ 働き方改革の効果の実感には個人差があり、十分に感じられていない層が一定数存在する。学園全体での共通理解と計画的・継続的な推進が求められる。また、ＤＸや体制整備を進める中で、持続可能性を意識した運用とさらなる業務精選が今後の課題である。	・ 引き続きサポートスタッフやボランティアの活躍、ＩＣＴ活用、ペーパーレス化、部活動指導員の確保等を推進し、教職員が児童・生徒と向き合う時間の確保につなげるとともに、土曜授業の振替休業日の設定や休暇取得の促進によって教職員が休養できる時間の確保に努める。

東三鷹学園



令和7年度 東三鷹学園の評価・検証報告

大項目	I コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営		
重点目標	① 東三鷹学園スタンダード（キャリアパスポート）の充実 ② 地域学校協働本部及びCS委員会についての理解促進 ③ スクール・コミュニティの創造に係る取組の充実		
取組	① CS委員と教員が連携して、児童・生徒の意見を踏まえた学園スタンダードに改訂する。 ② 地域学校協働本部について共通理解を図り、効果的に活動する。 ③ 放課後子どもクラブや学童保育所等と連携し、円滑に運営していけるようにしていく。		
成果	課題	改善策	
① キャリアパスポートの内容を加えた「東三鷹 夢・未来デザインシート」を作成した。 ② CSカレンダー作成、漢字検定や英語検定、サポート隊等の実働部隊として活動を始めた。また、学園・学校評価等についての熟議に参加していただいた。 ③ 一小学童保育所が民営化して、学校や地域子どもクラブと連携しながら運営を始めた。また、一小、北野小で長期休業中の実施も行った。	① 改訂した内容や実施方法等について、児童・生徒や保護者、地域の方々に理解を得るように周知をする必要がある。 ② さらに活動が活性化していく必要がある。 ③ さらに充実した児童の放課後の居場所づくりと充実した活動ができるようにしていく必要がある。	① 今年度末の保護者会で保護者に変更について周知をするとともに、児童・生徒にも説明する。また、次年度初めに活用の仕方について丁寧に説明をして始める。夏季休業中に児童・生徒及びCS委員会で、よりよい活用について熟議を行う。 ② 活動内容の充実に向けて、会員をさらに増員するとともに、活動内容を広げていく。 ③ 各校のニーズと実態を踏まえて、関係機関と連携して、持続可能な活動内容や方法を検討して実施していく。	

大項目	I コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動		
重点目標	① 東三鷹学園版カリキュラムに沿った授業改善の推進 ② 相互乗り入れ授業の充実 ③ 児童・生徒の交流活動の充実		
取組	① 研究協力校2年目として、学園の児童・生徒の実態を踏まえた学園・校内の研究を行い、取組内容を市内の学校に発表する。 ② 計画の変更等を随時伝達して、効果的に実施していく。 ③ 生徒会・代表委員会の年間計画に昨年度の反省を踏まえて話し合いの時期や内容を具体的に位置付け計画的に実施していく。		
成果	課題	改善策	
① 学園共通の取組として、話し合い活動の充実と基礎学力の定着を目指した研究を行い、研究発表を行った。 ② 各校の学習予定等を確認してteamsで連絡を取り合い、効果的に乗り入れを行うことができた。 ③ ふれあい体験やデジタル・シティズンシップ熟議、東三鷹祭等の小中交流や小小交流等、計画的に準備、実施をすることができた。	① 研究内容のさらなる充実を図る必要がある。 ② 乗り入れに適した学年に教員が入ることができるように、あらかじめ小中学校で時間割を調整しておく必要があった。 ③ 児童・生徒や教職員が無理なく取り組むことができ、保護者や地域のニーズを踏まえた内容や方法で交流を充実させていく必要がある。	① 次年度も引き続き学園で共通して取り組む内容と各校で取り組む内容をあわせて研究に取り組んでいく。 ② 今年度のうちに、乗り入れに入る曜日と時間を小中学校で打合せを行ってから時間割作成に取り掛かる。 ③ 東三鷹祭については、地域のニーズを確認しながら内容や方法を検討していく。また、小小交流については、学年の発達段階に応じて関節交流を含めて全学年で交流を行う。	

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	1 (知) 確かな学力		
重点目標	① 基礎学力の向上 ② 教員の指導力の向上 ③ 自主学習の充実 ④ みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等		
取組	① A Iドリルの活用や補充学習を充実させるとともに、J Mコン等の取組をとおして基礎学力の定着を図る。 ② 市学力調査を活用し児童・生徒の実態を踏まえて、話し合い活動を充実させ、個別最適な学びと協働的な学びを推進する。 ③ 自主学習の進め方を明確にするため、家庭学習ガイド等で具体的に示していく。 ④ サポート隊の具体的な連携場面を教員に示し、効果的な指導を行う。		
成果		課題	改善策
① 各校でA Iドリル等を授業の導入時や家庭学習等に活用した。また、J Mコンテストに向けて既習学習の復習に取り組んだ。 ② 学園研究と関連させて、各校で話し合い活動の方法や内容を充実させた。 ③ 小学校では家庭学習として自主学習を計画的に行った。中学校では、みたか地域未来塾と連携して主体的に生徒が参加できるようにした。 ④ サポート隊事務局と連携して、サポートに入ってもらい機会を増やした。		① 長期休業中についても継続的に補充学習を行う工夫をする必要がある。 ② 各種学力調査の分析を踏まえて計画的な指導を行う必要がある。 ③ さらに多くの児童・生徒が自主学習に取り組む工夫をする必要がある。 ④ 多様な児童・生徒が安全安心して学習に取り組むことができるよう、サポート隊の方々と連携する必要がある。	① 夏季休業中等の計画的な宿題や補充学習の機会を一層充実させる。 ② 学力調査を踏まえた授業改善を行うとともに、学力定着に向けて計画的に復習も行う。 ③ 小学校においては、自主学習の取組内容の紹介や、習慣化に向けた啓発を行う。 ④ サポート隊や未来塾と連携して、学習習慣及び基礎学力の定着を図る。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	2 (徳) 豊かな人間性		
重点目標	① 人権と言葉を大切にしたい指導の推進 ② デジタル・シティズンシップ教育の推進 ③ 教育支援の充実		
取組	① あいさつ運動を中心とした取組を児童・生徒だけでなく保護者・地域とともに実施する。 ② 発達段階に応じた活用の仕方を児童・生徒が自ら考え、明確にして取り組ませていく。 ③ 障がいのある子もない子も、互いに尊重しながら成長できるように、学校・地域・家庭で連携して支援していく。		
成果		課題	改善策
① 2学期には、学園合同の挨拶運動を行い、児童・生徒及び保護者やC S委員、民生児童委員にも声掛けをして行った。 ② 事前に各学級で活用方法について話し合い、12月に保護者も交えて熟議を行った。 ③ けやき教室教員と各学級担任、専科教員、S Cや関係機関と連携して、障がいに応じた支援や指導、啓発を行った。		① 日常化するように、継続的に取り組む必要がある。 ② 児童・生徒が自ら活用の仕方を保護者とともに共通理解して効果的に活用できるようにする。 ③ 困り感のある児童・生徒への一層の支援の充実を図っていく必要がある。	① 学園及び各校で継続的な声掛けをするともに、保護者や地域の方々にも一層働き掛け、協働して取り組んでいく。 ② 児童・生徒が自ら考え、学園共通の使い方のきまり等をつくる等、デジタルの賢い利用者を育成する。 ③ 児童・生徒、保護者、教員が思いや願い等を出し合い目標の共通理解を図って取り組む。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	3 (体) 体力・健康		
重点目標	① 体力の向上 ② 健康にかかわる食育の実践		
取組	① 体力調査の分析結果を生かし、各校で体力の向上が必要な要素に重点を置き、計画的に日常的に取り組んでいく。 ② 食育としての取組を計画に位置付け、工夫しながら実施していく。		
成果		課題	改善策
① 体力向上に向けて、各校で独自の取組を行った。 ② 地元の農家の協力を得て、学校農園や農業体験等を行うなどし、給食食材にも生かしてきた。		① 体力調査の結果の分析結果を踏まえた取組については、十分に取組むことができていない。 ② 栄養士と連携しながら、食育を推進していくことが効果的である。	① 体力調査の分析を踏まえて、課題となる体力については、授業改善や学校全体の取組等を計画的に取り組むようにする。 ② 地域の特色を生かして地元の農家と連携して農業体験を充実させる等して、新鮮な農作物生産の大切さに気付き、食育への関心を高めるようにする。

大項目	Ⅲ 特色ある教育活動（その他）		
検証項目	1 特色ある教育活動		
重点目標	① 特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育 ② オリンピック・パラリンピック教育レガシーの継続等 ③ 地域貢献する力の育成		
取組	① 地域の関係団体等と連携しながら、カリキュラム・マネジメントの充実を図り、キャリア・アントレプレナーシップ教育を体験的に行う。 ② 「学校レガシー2020」の趣旨に基づいて、福祉やボランティア等に関する体験的な活動を工夫していく。 ③ 「東三鷹祭」を、生徒会や代表委員会が連携して主体的に活動し、地域へ貢献する。		
成果		課題	改善策
① 学校農園や農業体験等、地域人材と連携した取組を行うことができた。 ② ボッチャ体験や高齢者施設、障がい者施設との交流等の体験学習を行った。また中学生については、ボランティア活動に積極的に参加した。 ③ 学園の児童・生徒が連携して、主体的に東三鷹祭を企画・準備・実施をすることができた。		① 地域にある様々な団体があるので、大いに連携して児童・生徒が体験できるように今後も継続する必要がある。 ② 障がい者や高齢者等について理解する体験的な学習を継続する必要がある。 ③ 今後も、児童・生徒が主体的に活動する機会をつくることが大切である。	① 今後も、地域の特色を生かした農家や運動等の様々な団体と連携して、児童・生徒が多様な活動をする機会をつくる。 ② 地域団体と連携して、児童・生徒が地域行事等に積極的に参加して、ボランティア活動を行うようにしていく。また、多様性についての理解促進を行う機会をつくる。 ③ 保護者や地域のニーズを踏まえつつ、児童・生徒が主体的に活動する活動をさらに充実させていく。

大項目	Ⅳ 学校教育の維持向上を目指した教員の働き方改革		
検証項目	1 働き方改革		
重点目標	① 教職員のライフ・ワーク・バランスの推進。 ② 地域行事等への参加。		
取組	① ノー残業デーの実施率や年次休暇の取得率を高めるとともに、校務事務の効率化、会議時間の縮減等の工夫を一層推進する。 ② 地域の関係団体等との連絡会で相互の連絡を密にし、児童・生徒およびその保護者への広報に努めるとともに、教職員が地域行事に参加できるように調整して、地域との交流を活性化する。		
成果		課題	改善策
① 学校だよりと学年だよりの一本化や部活動の終了時刻を早める、DX化の推進等で、教員の平均超過勤務時間が減少してきた。 ② ほとんどの教職員が、地域行事に参加することができた。		① 超過勤務の時間にばらつきがある。また、中学校においては、土日の部活動の大会には、指導員と共に顧問も引率している。逆に平日の予算が削られたので、負担感を感じている教員がいる。 ② 地域団体と連携を図り、児童・生徒に、地域行事開催の情報提供をするとともに、ボランティア等としても参加できるようにする必要がある。	① DX化のさらなる推進と、校務分掌の平均化に努める。また、部活動についての教員の負担感解消に向けて、地域人財との連携を図っていく。 ② 関係団体と連携して、児童・生徒がボランティア等に参加できる機会を増やしていく。

おおさわ学園



おおさわ学園

令和7年度 おおさわ学園の評価・検証報告

大項目	I コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営		
重点目標	・ おおさぼ支援者の増加		
取組	① 保護者・地域への呼びかけや学園ホームページの活動 ② 保護者に保護者会や学校行事での呼びかけ（部活動・英検等の支援者依頼）		
成果	課題	改善策	
「おおさぼ」の周知度は上がってきた。 - 野球地域型クラブや天文クラブ、ジュニアバンドの活動が充実してきた。	「おおさぼ」の人財が不足している。 - 保護者・地域に呼びかけ、保護者がかかわりやすい形を考えていく必要がある。	- 人財は学校だけではなく社会全体で考える必要がある。かかわりやすい形を考えていく。 - 社会の変化にあわせ、保護者がかかわりやすい形を検討する。	

大項目	I コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動		
重点目標	① 基礎学力の向上 ② 主体的・対話的で深い学びのある授業改善（学園研：自律学習の推進） ③ STEAM教育の推進（学園研）		
取組	① 学園研究の推進 ② 児童生徒の実態把握と子ども中心とした実践活動 ③ STEAM教育の研修と取り組み		
成果	課題	改善策	
- 学園研究で職員が意欲的に研究授業を行うことができた。小・中の教員が交流し、互いに学び合うことができたのは大きな成果である。 - 部活動の地域移行化	- 学力の二極化 - 主体的・対話的で深い学びのある授業改善 - さらなる部活動の地域移行化	- 学習習慣の定着（四則計算ができない子ども）。 - さらなる地域資源を活用し、主体的・対話的で深い学びの授業改善。 - 部活動は地域での受け皿を増やす。	

大項目	II 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	1 （知）確かな学力		
重点目標	・ 主体的に学ぶ児童・生徒の育成		
取組	① 学園研究の推進 ② 児童生徒の実態把握と子ども中心とした実践活動		
成果	課題	改善策	
- 学園研究は教員が主体的に取り組むことができた。 - 児童生徒の実態把握と子ども中心とした実践活動が進んだ。	- 学園研究は教員が学びたい内容に取り組む必要がある。 - 今後も児童生徒の実態把握と子ども中心とした実践活動を進める。	- 研究主任が中心となった学園研究の推進 - ふれあいQ U等を活用した児童生徒の実態把握と子ども中心とした取り組みの推進	

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実	
検証項目	2 (徳) 豊かな人間性	
重点目標	・ 児童・生徒の自己有用感・自己肯定感の醸成	
取組	① 児童生徒の実態把握と子ども中心とした実践活動 ② 体験活動や学級経営の改善	
成果	課題	改善策
- 児童生徒の実態把握は進んだ - 子どもが主体的に取り組む活動が増えた - 学級経営の改善は進んだ - 新規の不登校者が減った。 - サポートルームの利用者増、学級にもどる生徒も出てきた。	- 実態把握を継続することで課題を把握する 「自己肯定感」「自己有用感」は高まってきているが、その反面で学習に自信がもてない児童・生徒や不登校傾向の児童・生徒もいる。	- ふれあいアンケートや QU の有効活用 - 補習授業の継続・サポートルームの有効活用

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実	
検証項目	3 (体) 体力・健康	
重点目標	・ 体力の向上や睡眠時間及び食生活の改善	
取組	① 児童生徒の実態把握と子ども中心とした実践活動 ② 睡眠時間や食生活改善の周知活動 ③ 体験活動や学級経営の改善	
成果	課題	改善策
- 熱中症対策は大きな事故を防止することができた。ある程度定着したため課題から外す。 - 睡眠時間の提起ができ、児童・生徒の意識が高まっている。	睡眠時間の確保や朝食の摂取といった生活習慣の改善を必要とする生徒が多々いる。	生活習慣の改善については、引き続き学園便り、学校便り、保健便り等で啓発していく。

大項目	Ⅲ 特色ある教育活動（その他）	
検証項目	1 特色ある教育活動	
重点目標	・ 小・小及び小・中の活動の充実と児童・生徒会の活性化	
取組	① 児童生徒の実態把握と子ども中心とした実践活動 ② 各学年の取り組み改善 ③ プレ講座（6年生）・中学校見学（5年生）の取り組み	
成果	課題	改善策
- 生徒の実態把握（ふれあい月間・学園評価・QUによる生徒の把握） - 児童・生徒会の実施（生活のきまり・デジタル・シティズンシップ等の熟議） - 小中の連携行事（プレ講座（6年生）・中学校見学（5年生）の取り組み）	- 児童生徒の実態把握の継続 - 音楽交流・小中の連携行事（プレ講座（6年生）・中学校見学（5年生）の取り組み）など小中交流を通して小中の活性化を図る。	- 児童生徒の実態把握の継続 - 音楽交流・小中の連携行事（プレ講座（6年生）・中学校見学（5年生）の取り組み）など小中の交流を今後も継続する。

大項目	Ⅳ 学校教育の維持向上を目指した教員の働き方改革	
検証項目	1 働き方改革	
重点目標	・ 教員のタイムマネジメント意識改善	
取組	① 時程の弾力化と管理職のコミュニケーション改善 ② 中学校の部活指導員のさらなる充実 ③ 地域部活動の設置	
成果	課題	改善策
・ ＩＣＴ機器の有効活用は進んだ。 ・ 各種会議のペーパーレス化は進んだ。 ・ 部活動改革はある程度進んだ。	・ 教員のタイムマネジメントの意識向上 ・ 部活動の地域移行化 ・ カスハラ対応	・ 自己申告等を活用して、教員各自がタイムスケジュールを作成・実行する中で、成果を共有し改善する。 ・ 部活動は地域での受け皿を増やしていく。 ・ カスタマーハラスメントを保護者・地域に周知し理解を深めていく。